町なみ飛騨高山 10号

―日本遺産認定―
戦略的地域活性の始動

今年4月25日に、高山市の**飛騨匠（ひだのたくみ）の技・こころ-木とともに、今に引き継ぐ1300年**が「日本遺産」に認定されました。

日本遺産は、昨年始まった文化庁が推進する事業です。地域の歴史的魅力や特色を語る上で、文化財は不可欠です。しかし、それらは往々にして**点在**していて、**眺めるだけ**で、多くの住民にとっては**非日常の物**という印象です。そこで、**点在する文化財を関連付け、地域が主体となって観光や地域振興や産業振興などの部署と連携して整備・活用を行い、国内外に戦略的に発信することで、地域活性化を図ろう**というのが、この事業の目的です。

このように、点在する物件を関連付けて登録することをシリアル・ノミネーションと呼びます。

一昨年、世界遺産登録された群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」はまさにこれです。また現在ユネスコ無形文化遺産に申請中の、**高山祭の屋台**を含む全国33件で構成される「山・鉾・屋台行事」もそうです。日本遺産に認定されると、その自治体には、案内板の設置・観光ガイド育成などの費用が補助されます。

文化庁は年に1回、都道府県教育委員会を通じて認定の希望に関する募集を行い、4年後の東京オリンピック・パラリンピックまでに100件の認定を目指しています。昨年は19件が認定され18件・今年は19件が認定されました。

円安・ビザ発給要件の緩和・消費税免税対象品目の拡充が功を奏し、外国人観光客数が順調に増加しています。しかし訪問先は一極集中状態。人気の高い観光スポットをまとめたルートを指す**ゴールデンルート**という観光業界用語があります。

訪日外国人旅行者にとっては、東京～箱根・富士山～京都～大阪を巡るルートがそれです。一つの都市に長く滞在するのではなく、日本を代表するスポットを効率よく旅することができ、日本でやってみたいと思うこと（**日本食を食べる・買い物をする・景勝地を巡る・独特の文化に触れる**）が実現可能で、交通の利便性が良く、旅行者が求める全てを網羅するゴールデンルートの人気はうなぎのぼりです。主に都市を巡るこのゴールデンルートは、爆買い目的の旅行者向きです。

平成21年から長野県松本市・岐阜県白川村・石川県金沢市が共同で行ったPR活動によって、松本市から高山市を経て金沢市に抜けるルートがヨーロッパの旅行会社に気に入られ、都会の喧騒を離れて日本の原風景を巡るルートは**サムライルート**と名付けられ、ヨーロッパからの旅行者に人気です。

各地で観光客の奪い合いをしていたのは昔のやり方。今は、宿泊施設・商業施設・飲食店・交通機関・行政など、広域的な連携をした上で、訪日外国人旅行者に地域の歴史遺産の魅力を**分かりやすく**伝え、足を運んでもらう。つまり日本遺産事業は、国をあげて取り組む**訪日ゴールデンルートの量産**ということになるでしょう。

ところで、このたび日本遺産に認定されたのは市内にある**文化財そのものではありません**。「飛騨匠の技・こころ-木とともに、今に引き継ぐ1300年」をタイトルとする**「ストーリー」**と呼ばれるものです。点在する文化財を関連付けるための企画書であり解説書であり取扱説明書のようなものです。

①地域の魅力として発信する明確なテーマをもっていること
②その地に根ざして継承・保存されている文化財を中核としていること
③それらをただ解説するだけに留まらないこと

ストーリーには、この三要素が含まれていなくてはなりません。申請されたストーリーそのものは、原稿用紙10枚程に及びます。概要が高山市のホームページなどに掲載されていますので、引用して紹介します。

「飛騨工（ひだのたくみ）制度」は、古代に税を免じてまでも木工技術者を都へ送らせた全国唯一の制度で、飛騨の豊かな自然に育まれた「木を生かす」技術や感性と、実直な気質は古代から現代まで受け継がれ、高山の文化の基礎となっている。市内には中世の社寺建築群や近世・近代の大工一門の作品群、伝統工芸など、現在も様々なところで飛騨匠の技とこころに触れることができる。

これは私たちが木と共に生きてきた1300年の高山の歴史を体感する物語である。

（4ページへ）

皆様からの「地域や町並み」に関する身近なニュースや、ご意見、ご要望など、各保存会 会長様 までお寄せください

高山市行政情報 → くらしの情報 → 生涯学習・文化・スポーツ → 文化財・歴史 → 高山市景観町並保存連合会 → 町なみ飛騨高山

お寄せいただきましたご意見などは、編集して本誌等でご紹介させていただくことがあります

本誌「町なみ飛騨高山」のバックナンバーをカラーでご覧いただけます http://www.city.takayama.lg.jp/kurashi/1000021/1000119/1000844.html

奈良時代、財源にするために朝廷は、地方から税を徴収しました。

飛騨が、森林資源に恵まれていること・腕の良い木工技術者がいること・優れた建築技術を要する寺院がたくさんあることは、朝廷から注目されていました。

そこで、税を免じてまでも都での建築工事に携わる労働者の上京を命じたのが、一三〇〇年前に施行された**飛騨工（ひだのたくみ）制度**です。一年交代で100人にも及ぶ飛騨の民が位山（くらいやま）を越えたのです。

飛騨からやって来た実直な気質の労働者は働き者ばかりで、万葉集に

かにかくに　物は思わじ
斐太人の　打つ墨縄の
ただひとみちに

と詠まれるなど、後世にその名を伝えました。

勤めを終えて飛騨に戻ると、都で得た知識や技術を活かして新たな建築物を残すなどし、飛騨匠の技・心は相乗的に高まったというわけです。

※制度の名称としての「ひだのたくみ」は「飛騨工」と表記します。

ストーリーのメインキャストは、飛騨工制度に端を発する木工集団 飛騨匠です。ストーリーを構成するのは、お寺や神社・町家をはじめ、高山祭の屋台、飛騨春慶・一位一刀彫など、私たちの身近にある41件の文化財などです。

久々野町
有道杓子（うとうしゃくし）
／市指定無形民俗文化財

国府町
安国寺経蔵（きょうぞう）
／国宝
荒城（あらき）神社本殿
／国指定重要文化財
など6件

高山市街地
飛騨国分寺の大イチョウ
／国指定天然記念物
照蓮寺（しょうれんじ）本堂
／国指定重要文化財
飛騨春慶（ひだしゅんけい）
／記録作成等の措置を講ずべき無形文化財
高山祭屋台
／国指定重要有形民俗文化財
など34件

認定を受け國島高山市長は「飛騨の匠の技や心は高山の文化の礎。市民と喜びを分かち合い、認定を弾みに発展に向けて取り組んでいきたい」とコメントしました。

実際のところ、「日本遺産に認定されました！」と発表するに留まり、そこから先の展開に行き詰っている自治体も多いようです。

たとえば…

日本遺産に認定されたストーリーを構成する文化財を、

歴史アドバイザーの引率で巡るバスツアー

真っ先に思いつきますが、日本遺産制度は文化財保護の強化を目的としているわけではありません。柔軟で思い切った地域活性のヒントであるという印象を受けます。思い切ってこんな展開はどうでしょう。

・民泊ならぬ文化財泊
・飛騨匠の工法のを活かした宇宙開発
・認定されたストーリー同士さらにシリアルして、ボリュームアップ

今後の展開に期待大

海外どころか、今のところ国内でも知名度が低いこの事業。日本遺産の肩書を得たそれだけでは、集客は見込めないでしょう。認定目標が4年後までに100件ということは、毎年20件程ずつ増え続けるということです。埋もれてしまうことなく、そこから抜きん出るのは、並大抵のことではありません。

まだ始まったばかりです。各自治体のリーダーシップの下、ストーリーに沿った展開の盛り上がりに期待が寄せられます。

■総会のご報告■

去る7月11日、平成28年度高山市景観町並保存連合会の総会が開催されました。

▼時間　午後5～6時
▼場所　洲さき
▼出席者　62名
▼議案1号　平成27年度事業報告及び決算について
→異議なく承認
▼議案2号　高山市景観町並保存連合会規約の改正について
→異議なく承認
▼議案3号　任期満了に伴う役員改選について
→異議なく承認
▼議案4号　平成28年度事業計画（案）及び予算（案）について
→異議なく承認
▼28年度視察研修について
→奈良県宇陀市、五條市方面を予定
▼その他意見、要望など有り
▼来賓祝辞
・高山市副市長
・高山市議会議長

※保存会紹介（上一之町大町会・下一之町）は、次号に掲載します